

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第23週の発生動向

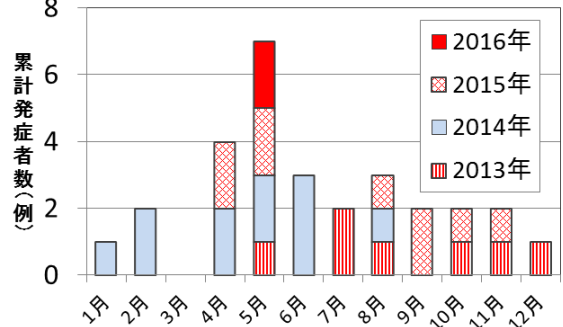
トピックス

・**重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)** (全数報告の感染症) の報告が延岡保健所から1例あった。県内での報告は今年2例目で、累計29例(平成25年3月届出開始以降)となった。患者は70歳代男性で、発症は5月下旬であった。ダニの刺し口は確認できず、海外渡航歴もなかった。

県内のSFTS年齢別報告数

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	9	7	8	1

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



全数報告の感染症(23週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核7例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症1例。
- 5類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等	
2類	結核	宮崎市	40歳代	男	無症状病原体保有者	-	
			60歳代	男	肺結核	症状なし	
			70歳代	女	無症状病原体保有者	-	
			90歳代	男	結核性胸膜炎	咳、痰、胸水	
			都城	40歳代	女	無症状病原体保有者	-
			日南	80歳代	男	疑似症患者	痰、発熱、呼吸困難
4類	重症熱性血小板減少症候群	延岡	70歳代	男	-	発熱、頭痛、下痢、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹	
	日本紅斑熱	都城	80歳代	女	-	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常、腎不全	
	レジオネラ症	延岡	40歳代	男	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎	

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は716人(定点当たり23.0)で、前週比100%と横ばいであった。前週に比べ増加した主な疾患は水痘とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

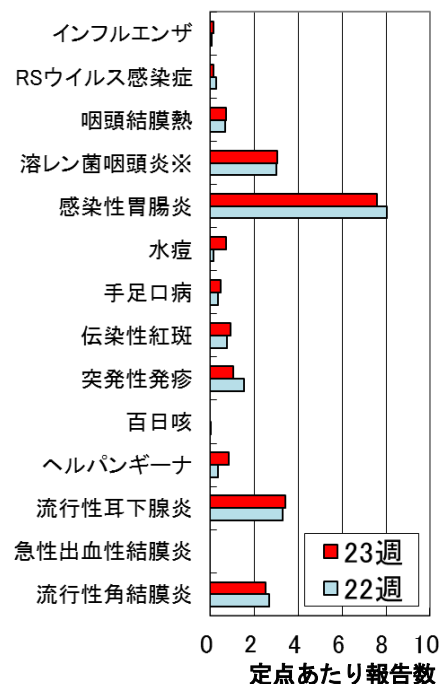
・報告数は110人(3.1)で、前週比102%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(3.4)の約0.9倍であった。中央(13.0)、日南(5.3)、高千穂(4.0)保健所からの報告が多く、年齢別では3~5歳が全体の約半数を占めた。

【流行性耳下腺炎】

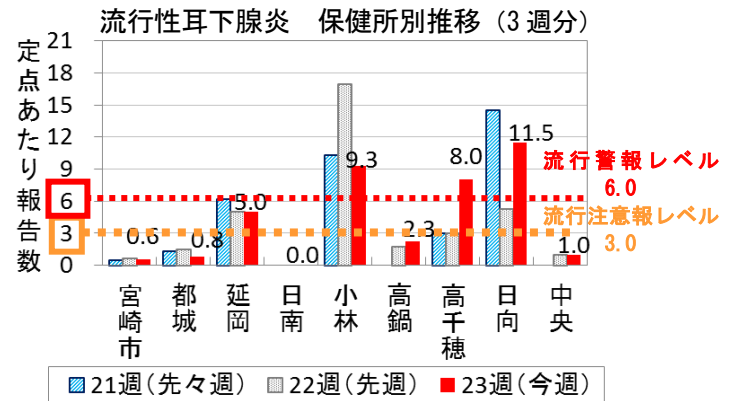
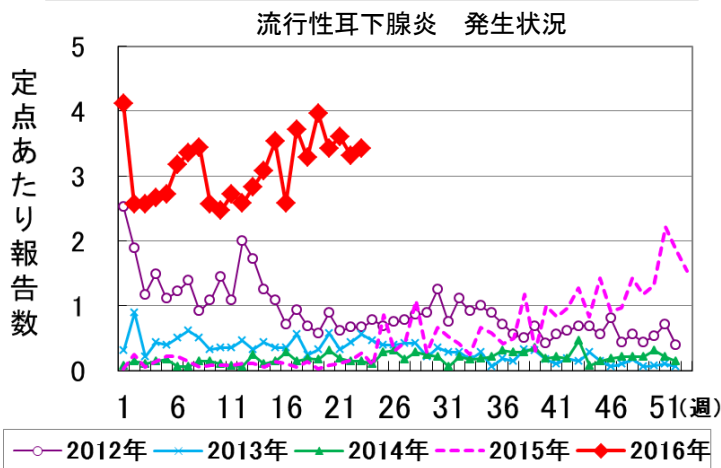
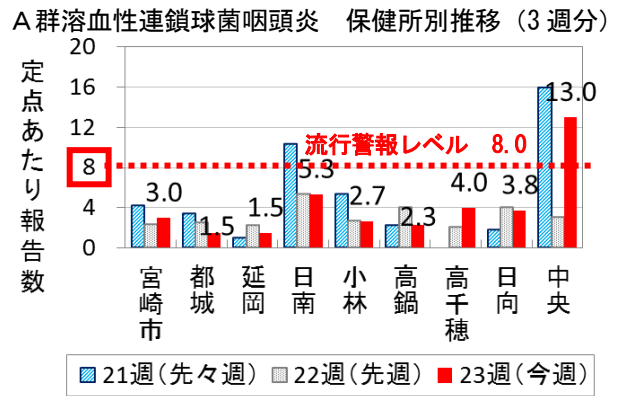
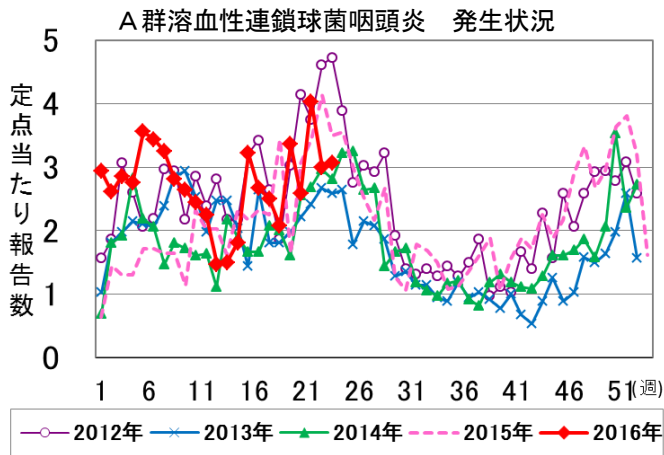
・報告数は123人(3.4)で、前週比103%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(0.71)の約4.8倍であった。日向(11.5)、小林(9.3)、高千穂(8.0)保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

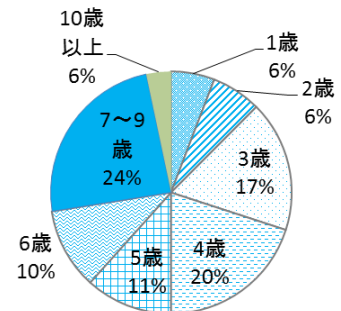
《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



流行性耳下腺炎 年齢群別割合



★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：延岡保健所から1例報告があった。5~9歳が1例であった。
- マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から6例、延岡保健所から1例報告があった。0~4歳が2例、5~9歳が5例であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：宮崎市保健所、高鍋保健所から1例ずつ報告があった。0~4歳が2例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(5.0)
日南	なし
小林	伝染性紅斑(2.0)、流行性耳下腺炎(9.3)
高鍋	伝染性紅斑(2.0)
高千穂	流行性耳下腺炎(8.0)
日向	流行性耳下腺炎(11.5)
中央	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(13.0)

* 流行警報レベル開始基準値*

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

* 流行注意報レベル基準値*

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

🇯🇵 全国 2016 年第 22 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 22 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	413 例				
3類感染症	コレラ	2 例	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	35 例
4類感染症	E 型肝炎	4 例	A 型肝炎	4 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例
	つつが虫病	2 例	デング熱	2 例	日本紅斑熱	5 例
	レジオネラ症	18 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	8 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	13 例
	急性脳炎	4 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例	後天性免疫不全症候群	23 例
	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	37 例	水痘（入院例）	7 例	梅毒	74 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	4 例	風しん	3 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 97% とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患はヘルパンギーナと流行性耳下腺炎であった。減少した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,489 人(1.1)で前週比 131% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.49) の約 2.2 倍であった。宮崎県(3.3)、山形県(2.7)、佐賀県(2.5)からの報告が多く、年齢別では 4~5 歳が全体の約 3 割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は 1,325 人(0.42)で前週比 168% と大幅に増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.34) の約 1.2 倍であった。香川県(2.7)、佐賀県(1.9)、広島県(1.7)からの報告が多く、年齢別では 1 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

📊 月報告対象疾患の発生動向 <2016年5月>

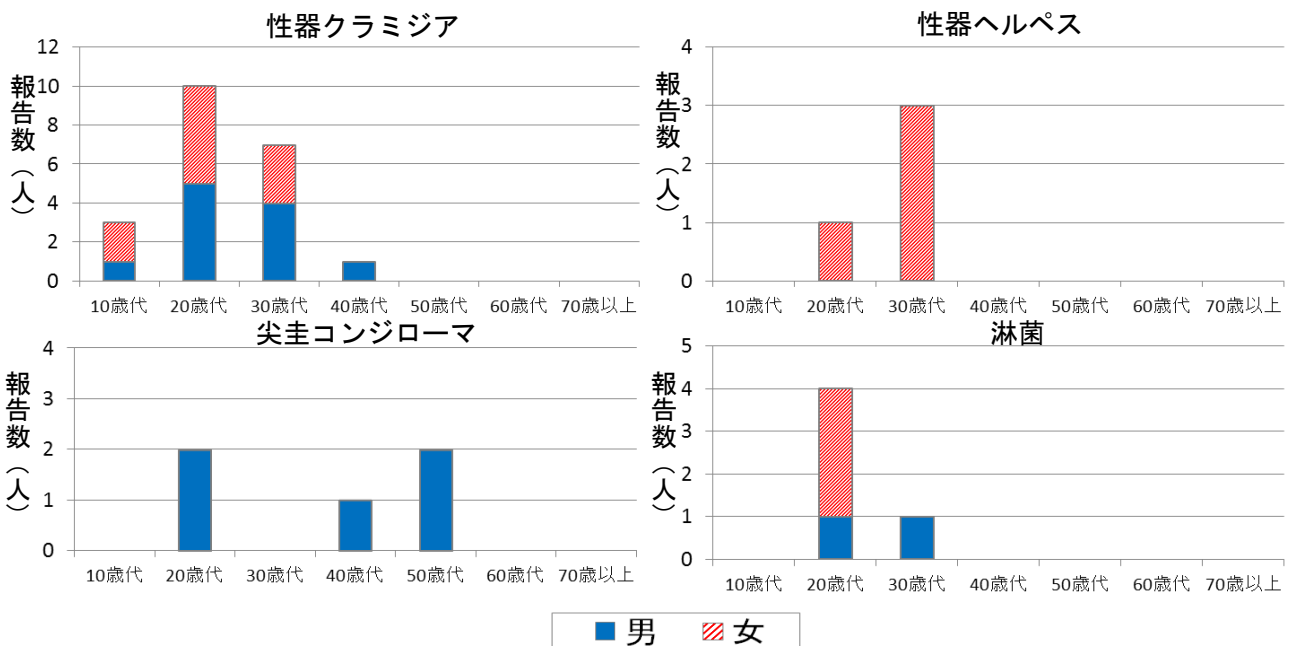
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は35人(2.7)で、前月(2.2)の約1.2倍、昨年5月(3.1)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数21人(1.6)で、前月(1.3)の約1.2倍、昨年5月(2.1)の約0.8倍であった。20歳代が全体の約半数を占めた。(男性11人・女性10人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人(0.31)で、前月(0.23)の約1.3倍、昨年5月(0.46)の約0.7倍であった。(女性4人)
- 尖圭コンジローマ：報告数5人(0.38)で、前月(0.38)の1.0倍であった。(昨年5月報告なし)(男性5人)
- 淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月(0.31)の約1.3倍、昨年5月(0.54)の約0.7倍であった。(男性2人・女性3人)



【全国】 定点医療機関総数：985

定点医療機関からの報告総数は3,902人(4.0)で、前月比で107%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,954人(2.0)で前月比107%、性器ヘルペスウイルス感染症762人(0.77)で前月比106%、尖圭コンジローマ539人(0.55)で前月比120%、淋菌感染症647人(0.66)で前月比102%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は25人(3.6)で前月比119%と増加した。また昨年5月(2.1)の約1.7倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数25人(3.6)で、前月の約1.3倍、昨年5月(2.1)の約1.7倍であった。70歳以上が全体の6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：476

定点医療機関からの報告総数は1,494人(3.1)で、前月比102%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,320人(2.8)で前月比103%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症166人(0.35)で前月比95%、薬剤耐性緑膿菌感染症8人(0.02)で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第23週(6月6日～6月12日)

疾病名		第22週	第23週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	5	9	6	1			2				
	定点あたり	0.08	0.15	0.38	0.10	0.00	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	10	6	1	2	1		1	1			
	定点あたり	0.28	0.17	0.10	0.33	0.25	0.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	25	26	9	3	4	6	1	1	1	1	
	定点あたり	0.69	0.72	0.90	0.50	1.00	2.00	0.33	0.25	1.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	108	110	30	9	6	16	8	9	4	15	13
	定点あたり	3.00	3.06	3.00	1.50	1.50	5.33	2.67	2.25	4.00	3.75	13.00
感染性胃腸炎	報告数	290	273	56	49	8	31	48	36	3	37	5
	定点あたり	8.06	7.58	5.60	8.17	2.00	10.33	16.00	9.00	3.00	9.25	5.00
水痘	報告数	6	26	4	4	7	3	2	5		1	
	定点あたり	0.17	0.72	0.40	0.67	1.75	1.00	0.67	1.25	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	13	17	2	2	1	3	1	3	1	4	
	定点あたり	0.36	0.47	0.20	0.33	0.25	1.00	0.33	0.75	1.00	1.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	28	33	11	6	1		6	8			1
	定点あたり	0.78	0.92	1.10	1.00	0.25	0.00	2.00	2.00	0.00	0.00	1.00
突発性発しん	報告数	56	37	10	3	9	6	1	4	1	3	
	定点あたり	1.56	1.03	1.00	0.50	2.25	2.00	0.33	1.00	1.00	0.75	0.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	13	31	11	2	5	2	3	1	1	6	
	定点あたり	0.36	0.86	1.10	0.33	1.25	0.67	1.00	0.25	1.00	1.50	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	119	123	6	5	20		28	9	8	46	1
	定点あたり	3.31	3.42	0.60	0.83	5.00	0.00	9.33	2.25	8.00	11.50	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	16	15	12	3							
	定点あたり	2.67	2.50	4.00	1.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	12	7	6		1						
	定点あたり	1.71	1.00	6.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		2	1					1			
	定点あたり	0.00	0.29	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～23週)

2類感染症	結核	98例(7)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4例				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	2例(1)
	つつが虫病	5例	日本紅斑熱	2例(1)	レジオネラ症	1例(1)
5類感染症	アメーバ赤痢	9例	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例
	急性脳炎	7例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	4例
	梅毒	5例	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例

()内は今週届出分、再掲